練馬産稲穂で
お正月飾りを作ろう！

大泉リサイクルセンター

昨年12月に初めて実施し好評を得た講座「練馬産稲穂でお正月飾りを作ろう!」のご紹介です。今年も大泉リサイクルセンターのボランティアが区内の自宅で稲を育て収穫し講座の準備を進めています

お正月のしめ縄飾り

お正月は本来新年の神様である年神様を迎え、祀る行事。年神様は各家々に生きる力、幸せを授けてくれると考えられていました。そのためお正月前にしめ飾りで年神様を迎え、祀る準備をしました。しめ飾りは神様を祀る神聖な所に不浄なものが入らないように守ってくれます。

正月飾りの稲穂にはどんな意味がるのでしょう。本来稲の収穫は秋で、お正月とは季節が違いますが、しめ縄として飾るようになったのは新しい年も多くの食物が実り、人々が食べ物に困らないようにとの願いが込められていました。

©2020 練馬区立リサイクルセンター

大泉リサイクルセンターのボランティアが12月の講座実施に向けて稲を育てました

4月上旬

発芽準備。
塩水に浸し
沈んだ種もみを
牛乳パックで
作ったポットの
「苗代」に植えます

5月上旬

4日前後で
発芽して
5月上旬には
10cm程度に
育ちました

5月下旬

ポットで苗の根を強くし、
プランターなどに田植えをしました

7月中旬

約70cmまで成長しました

8月上旬

出穂（しゅっすい）、
穂が出て花が咲き始めたところ

9月上旬

稲の穂がたれ始め、
刈り取る2週間前から水やりはしません

9月下旬

早い家では稲刈し「はさがけ」で
2週間乾燥しました。
雨の日は片付けました

稲を育てた
ボランテイアが
徒歩か自転車で
センターに
持参するので
運搬エネルギーは
ゼロに近い!?

©2020 練馬区立リサイクルセンター

「はさがけ」とは

米は刈り取った時点で水分が20～30%含まれていて、カビが生えたり芽が出たりしてしまうので品質が保てないため「はさがけ」で水分量を下げます。
現在はコンバインで稲刈りをしながら同時に脱穀を行うため、「はさがけ」はせず脱穀した稲を機械乾燥するのが一般的です

「はさがけ」の利点

①機械乾燥よりゆっくり乾燥させるので粒が割れにくい
②穂の形が残ったまま乾燥するのでその間も実りが進む
③省エネ乾燥

ボランティアの皆さん（環境グループ）

昨年講座の様子

講座ではワラから縄をない　オリジナルの正月飾りを作りました

〇米文化や食料自給率についてお話し、農業や地域の農産物への関心が高まりました
〇地産地消やフードマイレージについてもお伝えし、考えました

おしらせ

当センターでは本年も「練馬産稲穂でお正月飾りを作ろう」講座を12月開催予定です。
詳しくは、11/21発行の「ゆずりは」またはＨＰをご覧ください。

※新型コロナウィルスの感染防止のため、講座・催しが中止になる場合があります

©2020 練馬区立リサイクルセンター